

# 鍊金術と 特殊器台

素材、製作技法から昇仙思想



岡山県立博物館 発掘された日本列島2015



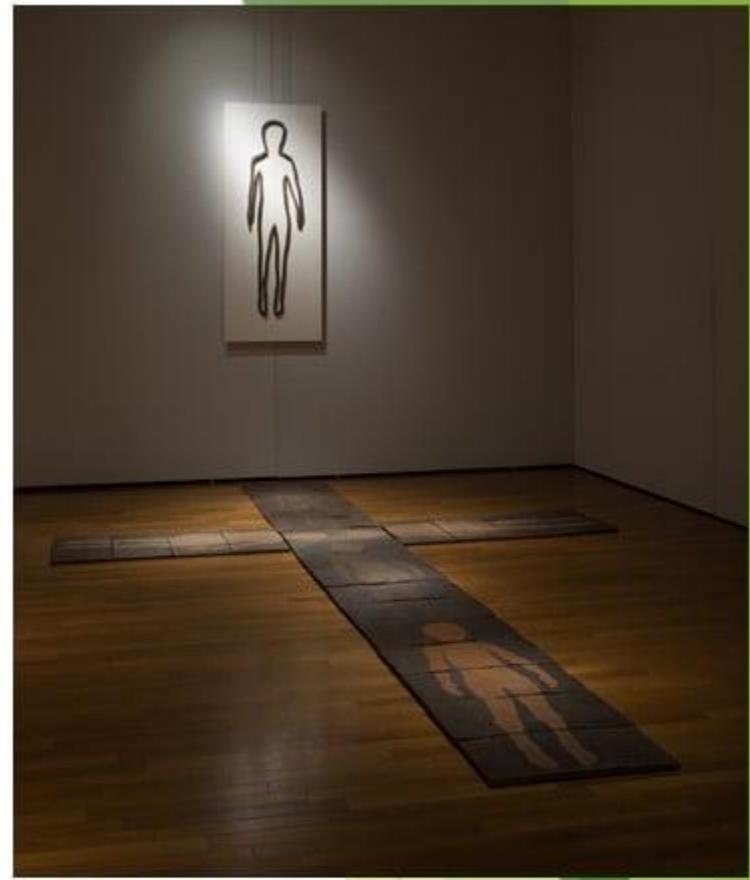
## 森和彥 陶芸家

- ▶ 1969年1月18日 岡山県備前市生まれ
- ▶ 1992年3月 武蔵野美術大学彫刻科卒業
- ▶ 2013年 「アートの今」3会場巡回
- ▶ 2019年 「ZEN & BIZEN Ⅲ」曹源寺  
岡山高島屋 個展5回 グループ展多数  
備前陶心会 備前陶友会会員
- ▶ 2013年 特殊器台復刻プロジェクト参加
- ▶ 2015年 梯築サロン参加
- ▶ 2017年9月18日 出雲弥生の森博物館  
特殊器台贈呈
- ▶ 2019年4月13日 古代三都物語「吉備編」  
特殊器台展示  
大型特殊器台6基、小型器台3基、  
特殊壺7基、等製作（ミニチュアを除く）



# 「不射之射」私の座右の銘 【芸道の本質】

- ▶ 「素描論」の中で紹介された中島敦 著「名人伝」  
見ることの重要性 風が馬に見えた時、  
  
代表作「山月記」1942年12月4日 33歳鬼籍に入る（いる）
- ▶ 「李陵」中島敦 絶作 （李陵の禍）  
  
匈奴と戦い俘虜となった李陵のことを中心として描かれている  
武帝・司馬遷（紀元前145～紀元前87）「史記」  
一宮荊（きゅうけい）—  
  
「奇」を好む 類希な才能に重きを置い  
『史記』に向かう私情を排した一貫する態度を表す



「シーシュポスの神話」  
熊山遺跡～現代への表現  
アートの今 2013  
BODY 身体の記憶

## 土の精製、つちふみ



RSKバラ園 アースデー

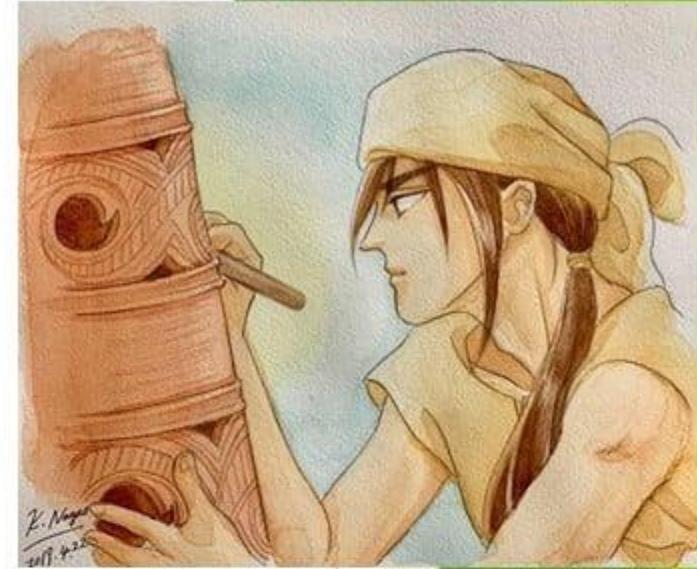


古代三都物語  
吉備編 2019  
「姫たちのロマン」

## 素材、製作技法から見る特殊器台

- ▶ 土（胎土） 吉備の山土とシャモット（土器を粉碎した粉）  
収縮率を下げる事で、急な温度変化による冷め割れを防ぐ  
縄文土器の場合は、川砂を混入することで収縮率を下げる  
向木見型にみる纖維の痕跡
- ▶ 丹（ヌリ土、化粧土） 鉄丹（ベンガラ）を泥漿と配合  
表面を滑らかにすることで線刻を描きやすく
- ▶ 表面加飾（線刻）と造形意匠（フォルムデザイン、箍（タガ）等）  
綾杉文、弧帶文、鋸歯文、沈線文、透穴の描き方
- ▶ 焼成（黒斑） 黒い燃え残り部分から固定、焼成方法がわかる  
縄文時代の野焼き 開放型  
弥生時代の野焼き 密閉型

# 特殊器台復刻プロジェクト掲載文献



「伽耶のアジロ」  
長尾鬼無里著



アジロ会議 西平氏アトリエ

# 鍊金術と昇仙思想

# 表現方法（技術）と表現内容（美術）

## ▶ 特殊器台の製作技法

発掘報告書から	設計図、全体像
破片分析から	素材（胎土）、混入物、表面技法
	顕微鏡的ミクロの視点

※鍊金術師の技術、思想

## ▶ 特殊器台の製作意図（祭祀）

発掘状況から	同時代発掘資料、発掘現場
歴史、民俗史から	「史記」「資治通鑑」「記紀」歴史書、神話と伝承 時代と空間をさかのぼるマクロの視点

※芸術家の意匠  
アフリカの犬は、アジのヒラキ  
(キュビズムと現代の美意識の差異)

## ▶ マザーデザイン（祖形）から派生していく 繙承者、一子相伝

特殊器台・弧帯文石・遺跡形態の謎



2020年4月～竹林の市川仙人の下で修業



芳賀の桃源郷（コロナ禍）

# 鍊金術とは

アルケミー (alchemy)=鍊金術を表す英単語

アルケミア (alkimia)=アラビア語で「技術」 ケメ (keme) エジプト語で「黒い土」に由来



## 神の技

冶金 (やきん)、金属加工、製薬

染色、ガラス製造、建設など



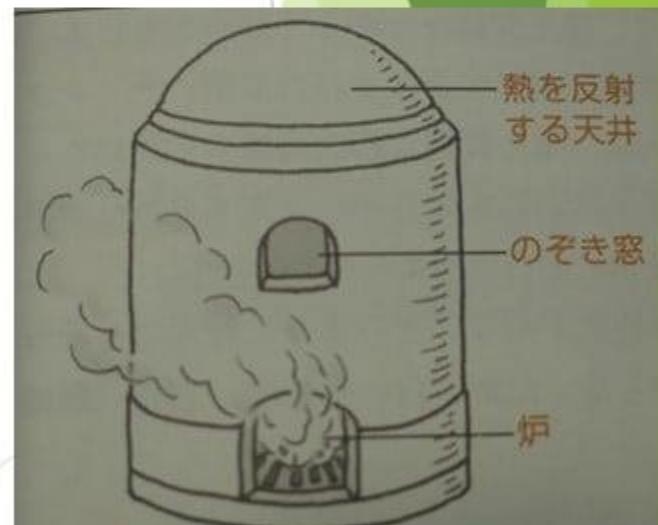
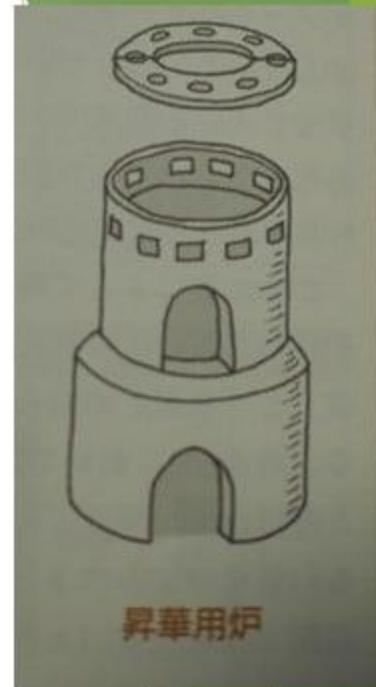
## 鍊金術「賢者の石」

坩堝 (るつぼ) の中で材料を溶融

黄金編成、不老不死、神秘的な術

鉄、鉛、銅など**卑金属を貴金属（黄金）**に変える黄金編成 人間の靈性を高める目的を含む

ドイツ「マイセン」は中国磁器を中世の**鍊金術師**が再現したこと有名



反射炉

# 記号、寓意の表現 (鉄)

▶ 錬金術師たちは、秘密を守るため複雑な表現を好んだ

記号、象徴、寓意、比喩、暗号、パラドックス等

記号の例（西洋）：▽=水 △=火 □=食塩 ○=太陽

古事記のおとぎばなし—物語に隠された真実

大穴持と少彦名のがまんくらべ 「糞と埴土」

大穴=野たたらの穴 糞=金糞（鉄）

埴土=埴輪土器を作る土

「ヤマタノオロチ」=鉄の民 対決か融合か？ 素戔鳴vs神武の祖先

天之羽々斬剣



天叢雲剣

天之羽々斬剣（アメノオハバリノツルギ）=石上布都魂神社（備前赤磐）  
オロチの尾の中から

天叢雲剣（アメノムラクモノツルギ）=熱田神宮（尾張名古屋）草薙剣（クサナギノツルギ）

桃太郎 回春型のおじいさん♥おばあさん ※桃は神仙道では不老不死、若返りの果実

鬼川市（倉敷上東）、鬼の金玉（有漢）、鬼切り=尾にぎり（旭川）、  
由加の鬼塚（倉敷児島）、、、

## 古代の赤色顔料は三種

朱 赤色の由来となる主成分が硫化第二水銀 辰砂(**HgS**)



ベンガラ 赤色の由来となる主成分元素が鉄  
赤鉄鉱 (酸化第二鉄**Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>**)の他に渴鉄鉱 (含水酸化鉄**Fe(OH)<sub>2</sub>**)



鉛丹 主成分は四三酸化鉛**Pb<sub>3</sub>O<sub>4</sub>** 通常「丹（たん）」鉛を焼いてつくる(法隆寺金堂壁画)



仙薬の調合は、弥生時代中期末より近畿、瀬戸内、北九州地方で、  
外面に煤が付着する片口の異形土器、鉢型土器、朱が付着した石杵が出土する  
その後、古墳時代まで鉢、甕、高杯にも認められる  
実体顕微鏡調査、試料採取、X線マイクロアナライザーで、水銀、硫黄を検出した

「古墳時代の赤色顔料」より



楯築遺跡 水銀朱



# 東洋鍊金術（煉丹術）の歴史

- ▶ 中国の鍊金術（煉丹術）  
不老不死 丹（辰砂） = 賢者の石（神秘思想）

李少君（前157~87）が武帝に奉った上奏文  
(司馬遷「史記」の記述)

「竈（かまど）を祀れば鬼神が呼び寄せられます。

鬼神が来れば丹砂（硫化水銀）を黄金に変化させられます。

黄金ができ、それで飲食の器をつくれば、寿命がのびましよう。

寿命がのびれば、海中の蓬萊山にいる仙人にも会えるでしょう。

仙人について、封禪（ほうぜん）の祭りをされれば不死が得られます。」

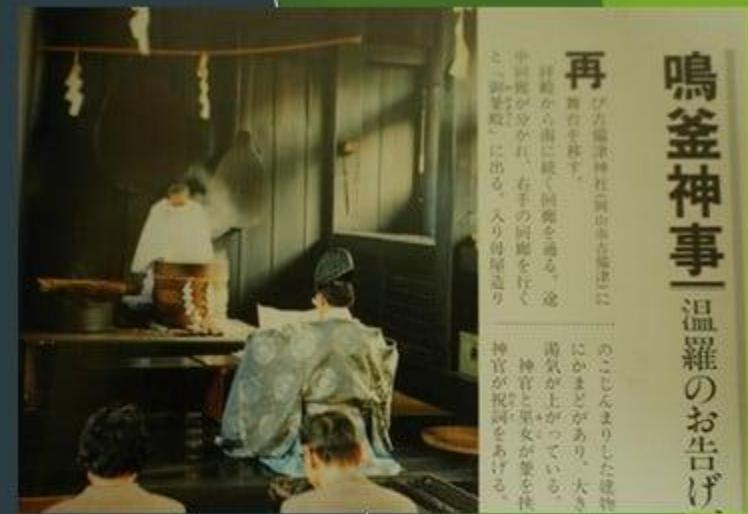
魏伯陽（呉）儒教の易、道教の哲学「周易參同契」

葛洪（283~363）養生法+長生法「抱朴子」金丹編、黃白編の合金精製法

図解 鍊金術より

魏志倭人伝 「その山は丹（辰砂）あり」正始4年（243）卑弥呼、魏に献上

かまどに似たデザインの特殊器台は、鬼神の依り代（よりしろ）か？



仙道 = 鬼道



## 封禪（ほうぜん）とは

帝王が天と地に**王の即位**を知らせ、天下が泰平であることを感謝する儀式である。

始皇帝以前には72人の帝王がこの儀式を行ったと『史記』には伝えられている。その歴史は三皇五帝によって執り行われたのを最初としているが、伝説の時代であるため詳細は不明である。始皇帝以後では、前漢の武帝や北宋の真宗など十数人が、この儀式を行ったと伝えられている。

封禪の儀式は、封と禪に分かれた2つの儀式の総称を指し、**土を盛って壇を造り天をまつる「封」**の儀式と**地をはらって山川をまつる「禪」**の儀式の2つから構成されていると言われている。

司馬遷の『史記』（卷二十八封禪書第六）の注釈書である『史記三家注』によれば、

「正義此泰山上築土為壇以祭天，報天之功，故曰封。此泰山下小山上除地，報地之功，故曰禪。（『史記正義』には、泰山の頂に土を築いて壇を作り天を祭り、天の功に報いるのが封で、その泰山の下にある小山の地を平らにして、地の功に報いるのが禪だ、とある。）」（Wikipedia）

墳丘墓築造と鬼神をよぶ竈（かまど）の直來（なおらい）儀式かもしれない？

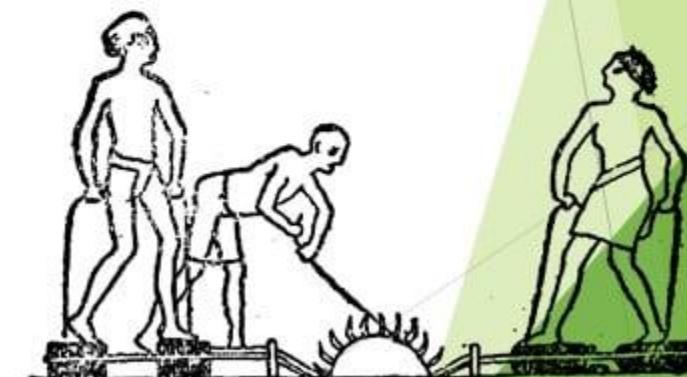
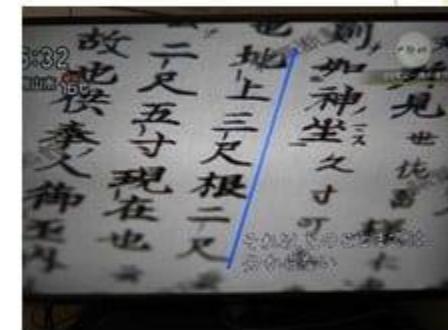
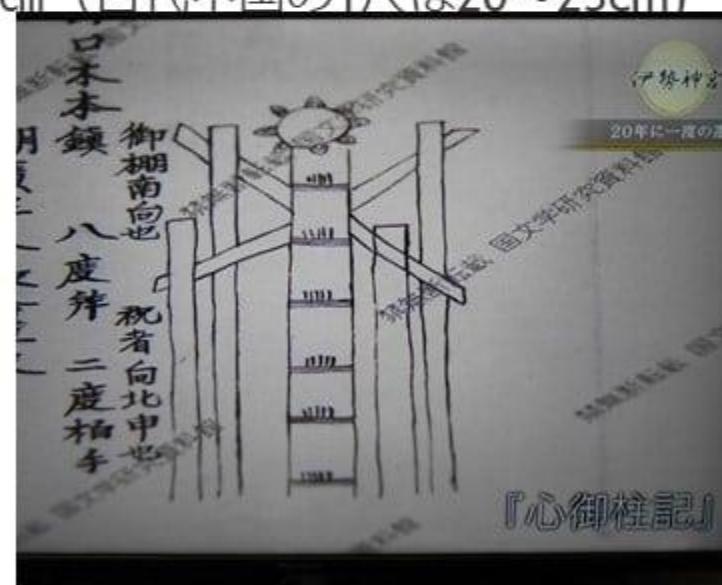
**秦の始皇帝**が皇帝になったのちの紀元前219年に、泰山で封禪の儀を行ったが、このとき既に古い時代の儀式の知識は失われており、儒学者などを集めて封禪の儀式について研究させたが、各自意見がまちまちでまとまらず、結局我流でこれを執り行ったと伝えられている。その**儀式の内容は秘密**とされており、実際に何が行われたかはよく分かっていない。

余談ですが、伊勢神宮の遷宮も**ご神体は秘中の秘**

遷宮の御進行は神武東征を再演（NHK特集「遷宮」より）

秘中の秘、20年に1回、宮の**心御柱**（しんのみはしら）

1尺は約30.3cm（古代中国の1尺は20~23cm）



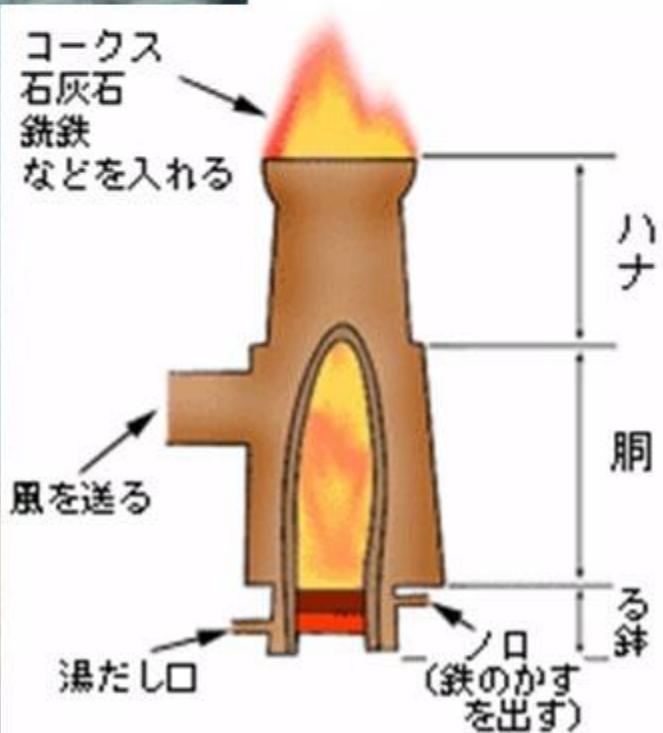
古代製鉄 [出典] 奥村正二『製鉄製鋼技術史』

# ベーゴマの古代

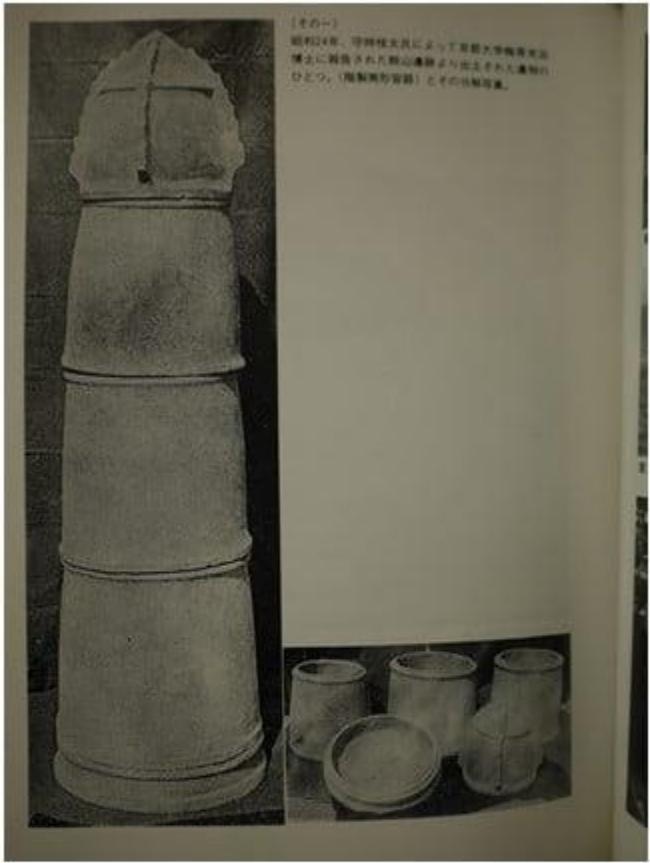
左画像 NHK「あさイチ」ベーゴマ工場  
「こしき炉」

中央は、こしき炉の構造

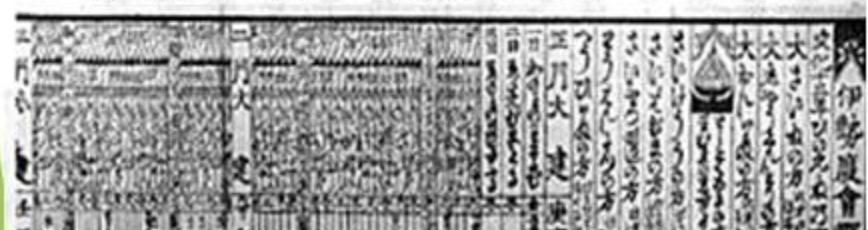
右下画像内の左ベーゴマの中の勾玉  
※勾玉 玉=魂(たましい)



バイ貝



「女王国の謎に迫る」 若狭哲六より  
熊山遺跡 遺物 天理教参考館



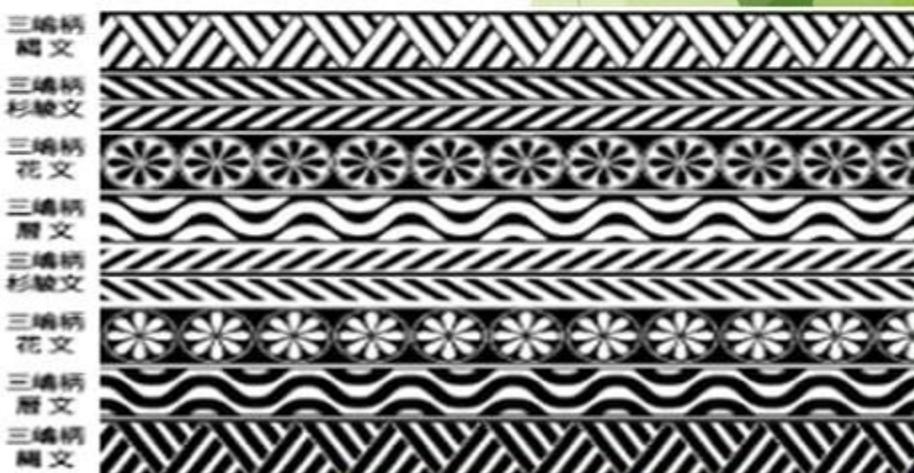
## 形態の継承

- ▶ アイアンロード（鉄の道）とシェルロード（貝の道）
  - 出雲**（鉄の道）から石を加工する鋳造原型師と鉄器製法の流入  
弧帯文石や器台の施文に影響
  - 九州南部**（貝の道）から希少貝とデザイン意匠の流入  
津島遺跡、貝製品の加工場、道具 弧帯文、透穴突起  
貝の紋章（臼井先生）と籠と鬼神召喚の儀式  
特殊器台祭器は、上記2つの文化の融合進化したデザインか
- ▶ 伊勢暦、三島暦と鋸歯文（瑞祥から癖邪へ変化説）
  - 茶道の茶碗にある鋸歯文—こよみ手または三島手  
こよみの語源は—木よみ—木に傷をつけ数えた  
神社で配られるこよみのデザインから茶碗名へ  
暦（こよみ）の時間、または方向（矢印）示すデザイン  
中国吉祥文図鑑—梯形鋸歯文は魚の頭が変化したもの  
方格規矩は漢代の将棋六博（すごろく）が祖形  
埋葬されていく過程で意味が癖邪に変化していったか

### 伊勢こよみ

#### 三島柄

朝鮮半島の茶碗のデザイン  
がベース



# 弧帶文石の謎

▶ 弧帶文石の謎（焼粉碎の小型弧帶文石との共通点）

造形技法に優れた石の加工技術が銅鐸原型に内在  
卓越した技術と道具の痕跡

出雲の銅鐸铸造の原型製作工程一つに原型石を焼く  
型の石を焼いて（あぶって）水分を無くす  
そしてなかごをいれ、湯（解けた銅）を石型へ流す  
※水分が残っていると湯（解けた合金）を流した時に型が割れる

左側画像 大阪府立弥生文化博物館

下側画像 岡山大学考古学資料展示室

画像2つの石種は「蠟石（ろうせき）」技術交流、同工人か  
※大型弧帶文石も蠟石でできている 柔らかく加工しやすい





蟻石原型



銅鐸



## 鋸歯文の反転



吉備 楣築



出雲 西谷

楯築遺跡は「勝」

# 古代中国にみる「勝」



## 参考文献

漢代の永遠を象徴する図柄 林巳奈夫  
「勝」についての一考察 八木春生  
西王母と七夕伝承 小南一郎

古代中国（後漢）昇仙思想の大流行

# 「勝」—西王母の簪（かんざし）を象徴する形—

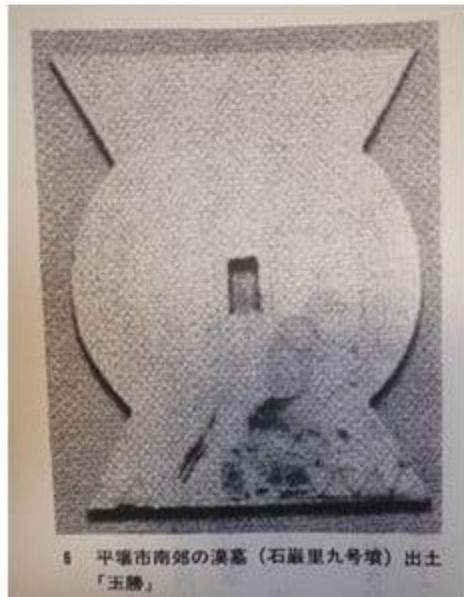
▶ 西王母 蓬髪にして「勝」を戴く 其の状は人の如く、豹尾虎歯  
吉祥、瑞祥の最高神 崑崙山（こんろんさん）に住む  
**機織りの神**  
三千年に一度、実をつける仙桃の管理人（東方朔は3回盗む）  
西王母と武帝の会合は特殊な燈火のしたで行われる



圖6 流雲文吳王西王母龍虎鏡

王者が善政を敷けば、祥瑞として「玉勝」が出現する

折勝は混沌（カオス）の象徴



8 平塘市南郊の漢墓（石巖里九号墳）出土  
「玉勝」



7 湖南省長沙五里牌9号後漢墓出土  
「金勝」

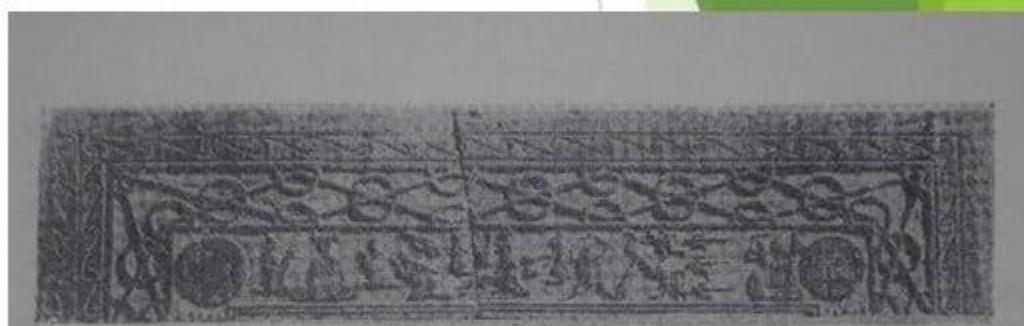


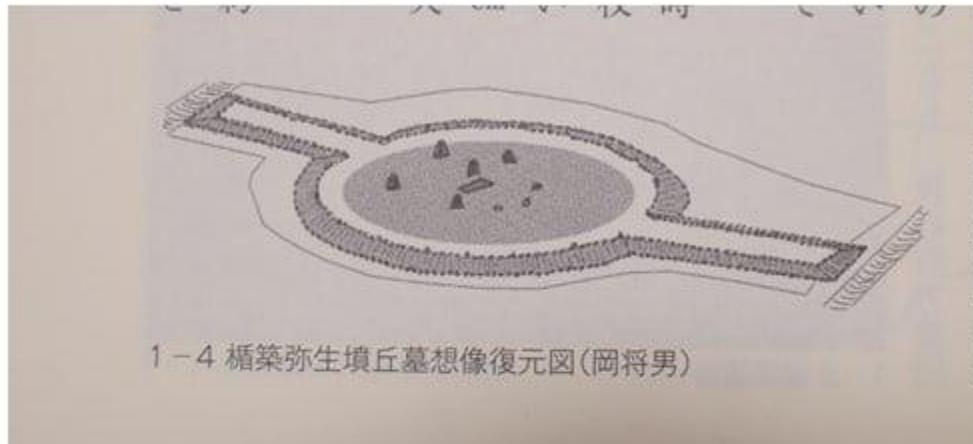
圖14 緇德軍劉家溝漢墓門楣石



圖15 山東省出土畫象石

# 「勝」の謎解き

楯築遺跡 葦石までそっくり

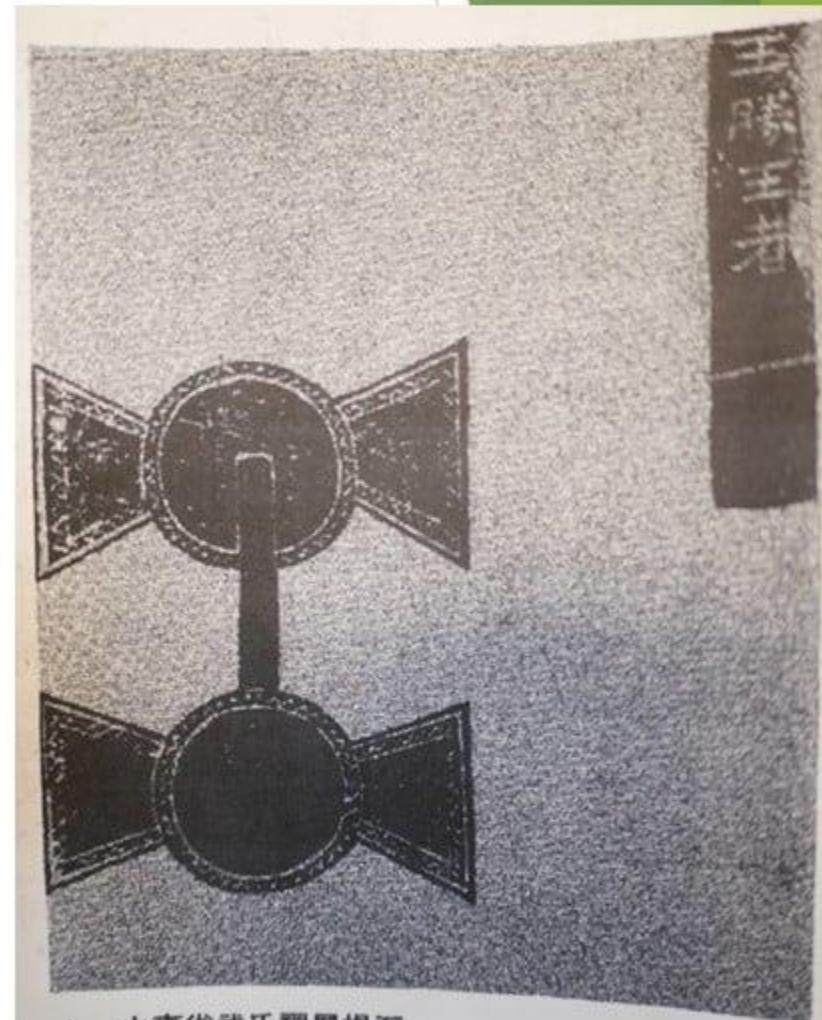


1-4 樅築弥生墳丘墓想像復元図(岡将男)

吉備邪馬台国東遷説 岡将男より

$$\text{勝} = \triangle + \bigcirc + \nabla$$

右上「玉勝王者」



3 山東省武氏祠屋根石

# 吉備と畿内の宮山型器台

▶ 春成秀爾 「向木見型特殊器台の研究」2018.12.

同一器台が地域を超えて出土しているが、胎土分析の結果によると特定の地域で試作した製品が移動したのではなく、特定の地域に住む**人が移動して製作**したと考えるほかない。

—中略—

その後、宮山型特殊器台の最終型式、都月系円筒埴輪の初期型が大和の箸墓古墳や西殿塚など超大型前方後円墳にたててあった事実は、吉備勢力の象徴とそれを祀る人を取り込んで前方後円墳が成立したことを示唆している。



吉備

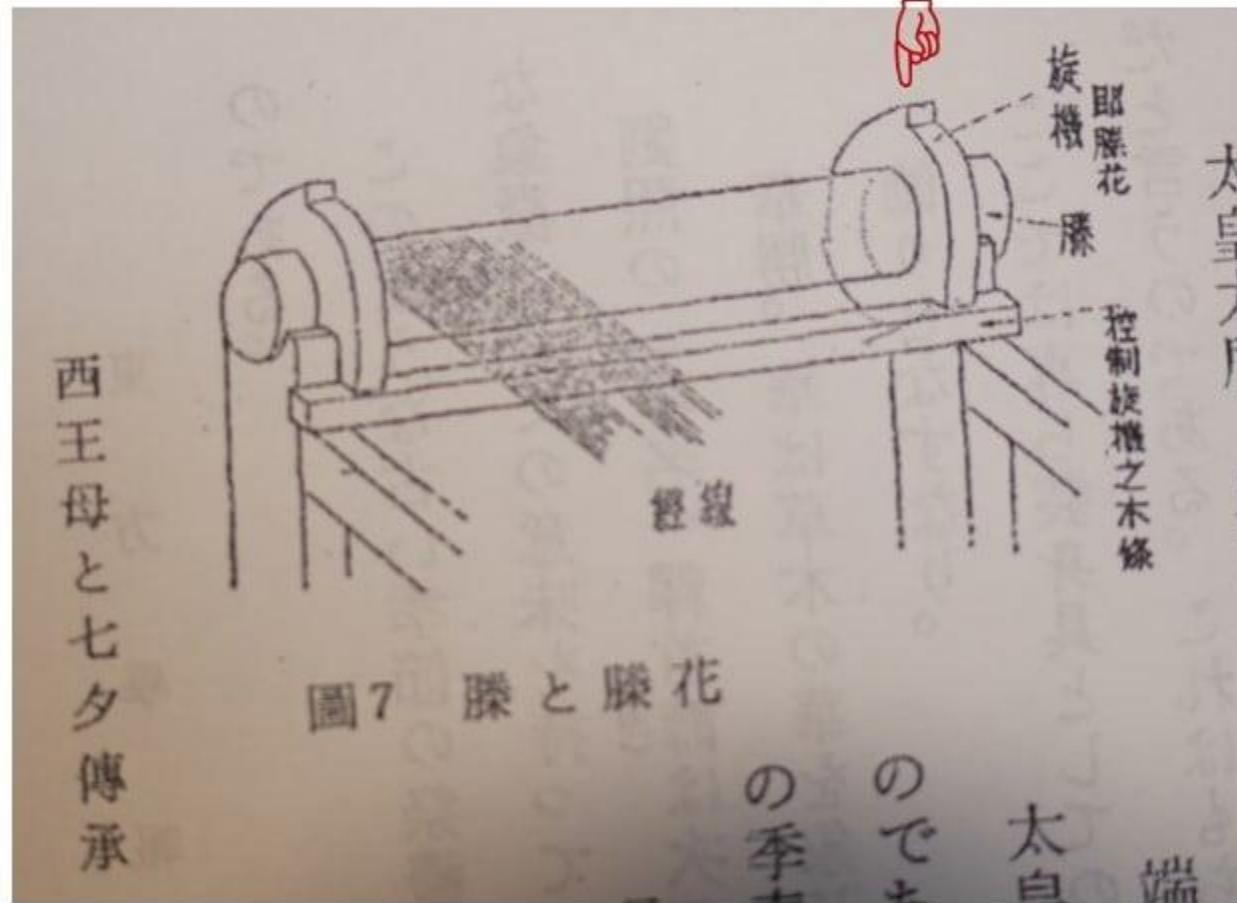


畿内

器台の透穴は△+○+▽の連続

# 機織りと「勝」

旋機に突部あり、特殊器台の丸透穴のデザインか？



※当時、機織りの技術は秘中の秘

古事記やおとぎ話で「けっしてみてください」



# 西王母が手にする「総」かせ 「杼」



紡錘（つむ）で紡いだ糸を巻き取る  
H形またはX形の道具。かせぎ。  
綾杉文のデザインにつながる?  
五の字を書くように巻き取る=永遠性  
※うさぎは、仙薬をついている



# 弧帶文石は龍虎坐（昇仙思想）

- ▶ 龍虎坐 = 昇仙の手段

**墓主を崑崙山（こんろんさん）へいざなう乗り物**

天上界ではなく、西王母、仙人の世界（不老長寿）

「絡み合う二頭の龍の姿を単純化した文様」

漢の武帝、**仙道**を好む。

**7月7日夜**、王母、**紫雲車**に乗りて殿西に至る。

頭上に**7種の青氣**（竹？）の鬱鬱として**雲の如き**を戴く。

時に**九微燈**（特殊器台か？）を設く。王母、**7桃**を求む、  
～侍女二人ばかり、年十七八、真に美人なり。

佛教の蓮華座に通じる（四葉文 = 蓮華世界）

西王母一別名**九靈太妙龜山金母** **龜石**（神石）の由来か？

※西王母の衣装も綾杉文



**龍虎坐 = 仙女 + 龍**

# 「分銅型土製品」 乞巧奠(きこうでん)の祖?!

## 梶の葉[平安時代]に似ている 棚機津女の伝承



無数に突かれた針孔のあとから、裁縫技術の向上を願ったのではないか!?  
側面にも針孔有り



ありがとうございました



2017.9.18  
出雲弥生の森博物館